十和田市事務事業評価シート

担当課名	中央公民館

【事務事業の種類と位置づけ】

市総合計画 実施計画番号	29	整理番号	42
基本目標	豊かな心をはぐくむ「こころ感動・創造都市」		
施策の展開方向	生涯学習の推進		
事務事業名	十和田市民大学講座		
事務の種類	自治事務	根拠法令等	
関連する事務事業	北里大学公開講座（生涯学習課）		

【人件費の推移（概算）】

		21年度実績	22年度実績	23年度計画
正職員	従事者数（人）	4	3	3
	活動日数（日）	27.5	20	18
	人件費（千円）	3,960	2,160	1,944
正職員以外	従事者数（人）			4
	活動日数（日）			7
	人件費（千円）			207

【事業費の推移】

事業費合計（千円）	21年度実績	22年度実績	23年度計画
	1,297	712	789
うち一般財源	1,297	712	789
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他			

【事務事業の概要】

対象 （誰（何）を対象として行うのか）	市民（一般成人）
意図 （対象をどういう状態にしたいか）	市民の学習機会充実及び教養を高め、生活文化の振興を図る。
手段 （どのようなやり方で行うのか）	・現代的な課題等の講演会の開催する。　・運営委員が講師の選考及び交渉する。 ・ポスター、チラシ、市広報等による広報活動を行う。

【指標】

活動指標 （活動の規模）	活動指標名①		講座の開催回数			
	計算式等		単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画
			回	9	10	9
	活動指標名②		講座への参加者延べ数			
	計算式等		単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画
			人	1,065	1,496	1,500
成果指標 （意図をどの程度達成しているか）	成果指標名①		事業費当たりの入込受講者数			
	計算式等	単位		21年度	22年度	23年度
	受講者数÷事業費	人/千円	目標値	1.0	2.0	2.0
			実績値	0.8	2.1	
			達成度(%)	82%	105%	
	成果指標名②					
	計算式等	単位		21年度	22年度	23年度
			目標値			
			実績値			
			達成度(%)			

十和田市事務事業評価シート

整理No	42
計画No	29

【担当課による検証】

		ポイント	検証	評価	点数	合計	検証の理由
妥当性	①	**市民ニーズ等から見る妥当性** 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 アンケート結果を検証し、企画運営委員会で市民ニーズ等に対応しているので、妥当である。
	②	**実施主体である妥当性** 行政が実施することが妥当か（民間と競合していないか）	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		
有効性	③	**活動指標から見る有効性** 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	成果向上の余地 1 / 6 市民が受講しやすい講座回数としながら、講師陣は知名度の高い講師選定に努める。
	④	**成果指標から見る有効性** 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2		
	⑤	**事務事業の見直しの余地** 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1		
効率性	⑥	**事業費の削減の余地** 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	★	2	6	0 / 6 市民の声を取り入れるため、企画運営委員会を設置し、現代的課題等に対応している。 北里大学講座と青少年育成市民大会と共催で実施している。
	⑦	**他の事務事業との統合・連携** 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	★	2		
	⑧	**民間委託等** 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		
公平性	⑨	**受益の偏り** 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4 歴史、環境、青少年問題、健康等の内容で実施しており、公平性は保たれている。
	⑩	**受益者負担の見直しの余地** 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		
				現在の適性		19 / 20	改善の余地 1 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 19 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 1 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成24年度の方向性 ⇒ **現状のまま継続**

方向性の理由

当該講座は、現代的な課題の学習や学習成果を活かした市民参加等を通して、心豊かな生活やまちづくりを一層推進していく生涯学習の機会として開講しながら、受講者の新たな発見と教養に結び付くよう継続する。

今後の具体的な取組み方策と狙う効果

意向調査やアンケート調査などを実施し、市民ニーズを的確に把握しながら講座内容や開催回数の縮小や全講座が知名度の高い講師となるよう検討する。